

開催概要

- ・eラーニングでの予習・復習 受講生向け講座
(<https://chihousei-college.jp/hakodate.html>)
- ・専門家講師による講義
- ・ディスカッション、フィールド調査、ワークショップ、意見交換会
- ・連携交流ひろば・掲示板での成果・感想・情報の共有
- ・地方創生シナリオ(アイデア集)の作成・提示

★第1回セッション:2019年10月20日(日)

- ・講演:「公共的な力」、「地域の諸要素を理解する力」
- ・インスピレーショントーク:「函館駅前・大門地区の課題」
- ・ワークショップ:「函館駅前・大門地区で2030年に期待する価値とは」

★第2回セッション:2019年11月10日(日)

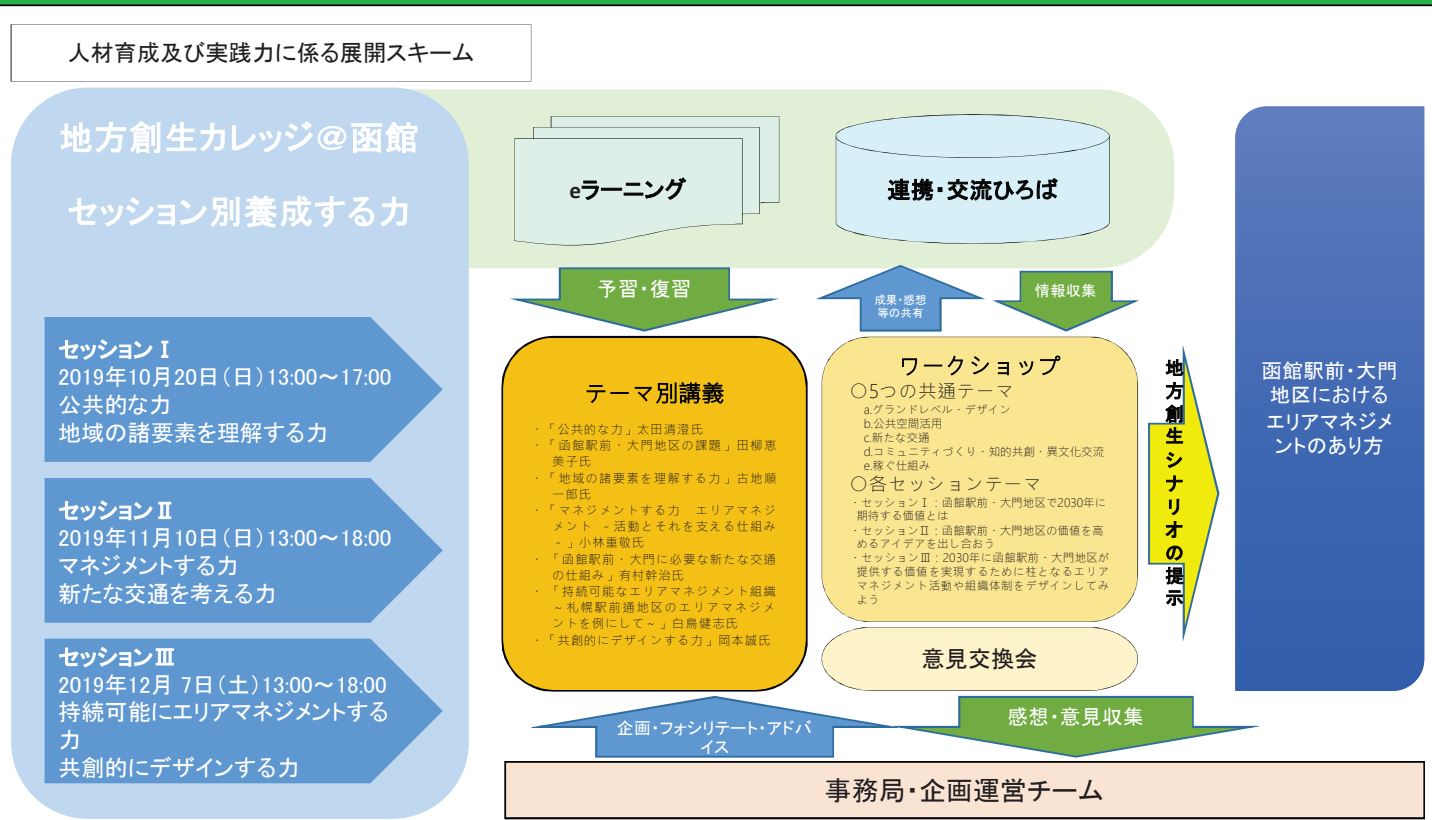
- ・講演:「エリアマネジメント -活動とそれを支える仕組み-」
「函館駅前・大門に必要な新たな交通の仕組み」
- ・ワークショップ:「函館駅前・大門地区の価値を高めるアイデアを出し合おう」

★第3回セッション:2019年12月7日(土)

- ・講演:「持続可能なエリアマネジメント組織 ~札幌駅前通地区のエリアマネジメントを例にして~」
「共創的にデザインする力」
- ・ワークショップ:「2030年に函館駅前・大門地区が提供する価値を実現するために柱となるエリアマネジメント活動や組織体制を デザインしてみよう」

「地方創生カレッジ in 函館」

講座スキーム図



「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ(ワークショップ等の成果のポイント)

5. 成果スキーム図



地方創生カレッジin函館で養成することを旨とした函館のエリアマネジメントに必要とされる人材の能力

<p>【公共的な力】</p> <ul style="list-style-type: none"> パブリックマインド(公共的思考)が出来る力 法制度を理解し、活用、新たな法制度を提案することが出来る力 ネットワークの要となり広範なプラットフォームを築くことが出来る力 	<p>【地域の諸要素を理解する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の諸要素に関するデータを収集し分析することが出来る力 地域資源(公共空間、歴史文化資源、人材、資金等)を理解し、活用することが出来る力 	<p>【マネジメントする力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光、関係人口を理解し、マネジメントすることが出来る力 ソーシャルビジネスをすることが出来る力 先端的なニーズを把握しながら、それを地域独自の需要に置き換え、持続可能なビジョンを時代に即して提案できる力 	<p>【共創的にデザインする力】</p> <ul style="list-style-type: none"> エリアに関係するステークホルダーの意見を理解し、共創的に意思決定することが出来る力 地域の諸要素を理解し、一つの系として統合し地域像を描くことが出来る力
---	--	--	--

2030年函館駅前・大門地区におけるミッション・ビジョン・バリュー

ミッション（存在意義）

「魅力的な街・函館」のシンボルとなる地区をつくる

ビジョン（将来のありたい姿）

外から内から集う多様な人々を歓迎し、「魅力的な街・函館」を象徴する地区をつくる

バリュー（大切にすること・行動指針）

1) グランドレベル・デザイン

昔ながらの小路文化を生かすとともに、中高層建物のグランドレベルを、街に開かれた空間として活用・演出し、路面からにぎわいの生まれる街を創出します。

2) 公共空間の活用

駅ナカや駅前、グリーンベルトなどの広場的な公共空間を生かすとともに、道路空間の利活用へのニーズの変化に応じた公共施策を投げ、交流や交歓が生まれる街を創出します。

3) 新たな交通

広域交通の起点として、地域交通との結節点として、移動しやすい交通アクセスを提供するとともに、よりスマートなヒトとモノの移動の仕組みを創出します。

4) コミュニティづくり・知的共創・異文化交流

多様な文化・多様な価値観の人々が集い、交流・交歓からさらに刺激的な文化を創出できるような、豊かな包容力を有する場・コミュニティづくりを支援します。

5) 稼ぐ仕組み

市民や観光客が本当に求めるサービス、新たな交流・交歓を呼び起こすサービスの提供により、経済的に稼げる仕組みを創出するとともに、街全体の公共的価値を高め地価上昇を呼び起こす仕組みをつくります。

グループ構成

1) グランドレベル・デザイン

Aグループ

Bグループ

2) 公共空間の活用

Cグループ

Dグループ

3) 新たな交通

Eグループ

Fグループ

4) コミュニティづくり・ 知的共創・異文化交流

Gグループ

Hグループ

5) 稼ぐ仕組み

Iグループ

Jグループ

「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ

課題・テーマ

グランドレベル・デザイン

現状

(1) 函館駅前・大門地区が観光エリアと地元エリアに分断されている

対策・施策

- (1) 観光エリアと地元エリア、双方を繋げて交流人口を増やす
- (2) 地元客・観光客、双方の交流人口を増やす核となる拠点を作る
- (3) 核となる拠点までの導線づくり

「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ スキーム図

『賑わいを作るために』

核となる拠点

～大門グリーンプラザ～



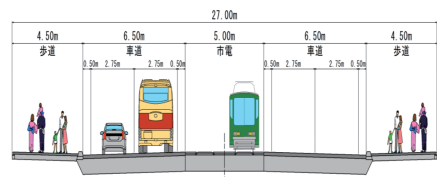
賑わいを産み出す様々な仕掛け作り

・マルシェやオープンカフェ、その他イベントを開催し賑わいを創出



関係者人口を増やし、たくさんの人が『自分ごと』として
駅前・大門地区を考えるきっかけづくり

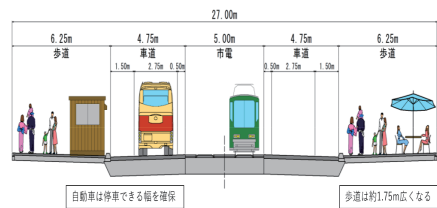
電車通り 歩道の拡張



道路の全幅は変えずに車道を1車線減らす。

すると・・・

歩道が広がり、出店や憩いの場を確保できる空間を創出できる



「地方創生カレッジ in 函館」函館駅前・大門地区創生シナリオ	
課題・テーマ	夜の街DAIMONをデザインする
現状	(1) 観光客向けの飲食店が何店舗も見られる他、地元民の訪れる目的がほとんどない (2) 人の通りが少なく、シャッター閉鎖されているテナントが目立ち、寂しさが漂う
対策・施策	(1) 人が集まる場所の創出→地元民が訪れたい飲食店街 (2) 芸術の街として文化を築く→空間と音楽のデザイン (3) 家族全員で楽しめる夜の街を目指す

昼の大門エリア活性化とは排反・補完の関係となる “夜の街 DAIMON”をデザインし賑わいを創出する



地元の人々が日常的に訪れる目的の提供
人の滞留 (地元民)、音楽 (生演奏)、光 (夜景) で
夜の大門エリアをデザインする

「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ

課題・テーマ

公共空間の活用

現状

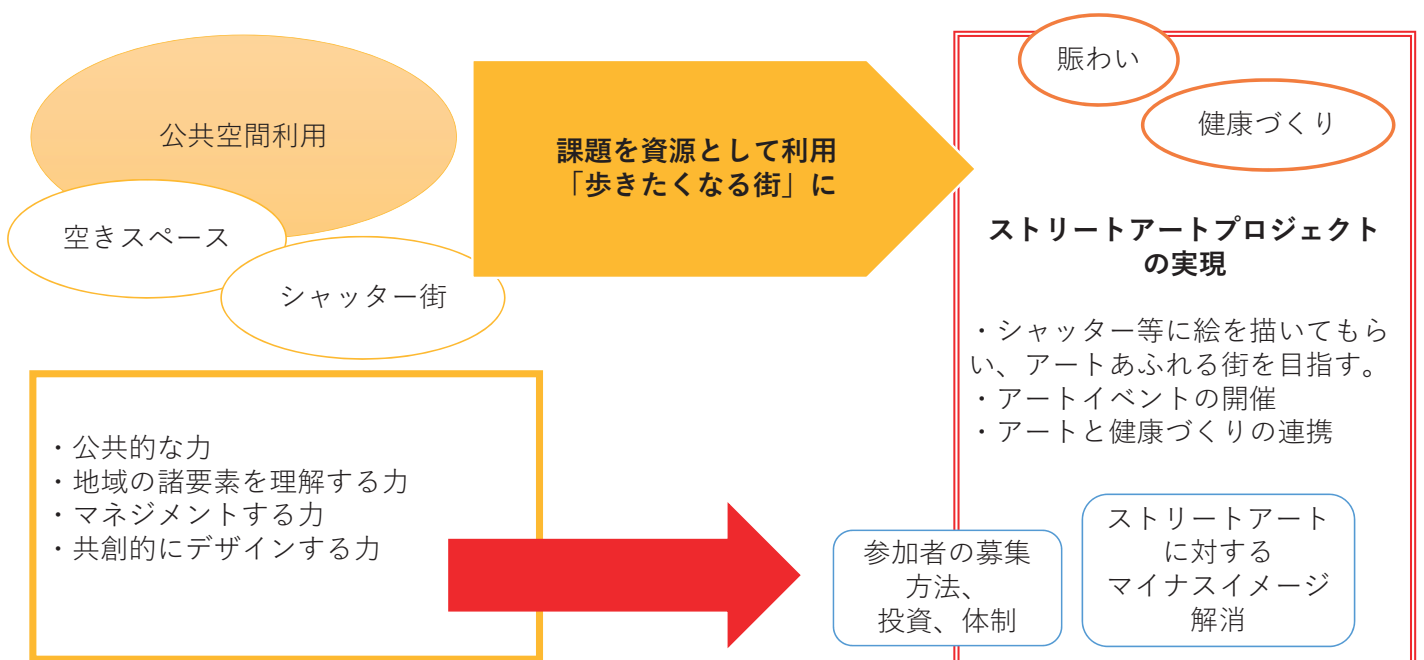
- (1) 人口減少や少子高齢化が進行している上、郊外への人口の流出や郊外型の大型商業施設などの進出などにより、函館駅前・大門地区の中心市街地における商業機能・賑わいが低下している。
- (2) 老朽化した建築物も多く、また、空き家・空き地も多く見られる。
- (3) 路面電車やバスの通る区間となっており公共交通は充実しているが、自動車の交通も多い。物理的、情報面でのシームレス化は進んでいない。また、移動のための歩行空間となっていて、歩いて楽しめる歩行空間とはなっていない。

対策・施策

「ストリートアートプロジェクト」

- (1) 「アート」の視点で、歩行者が歩いて楽しめる歩行空間を創造（地元のアーティストとのコラボによるシャッターアート、歩道空間などを活用したアートイベント、アートを媒介とした店舗1階エリアとの接続など）
- (2) 空き家などを活用した「アーティスト・イン・レジデンス」の取組
- (3) アートと健康づくりの連携→ウォーキングなどの健康づくりイベントとの連携（スタンプラリー、ウォークラリーなど）

「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ スキーム図



「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ

課題・テーマ

【新たな交通】 駅前大門を新たな交通拠点に！

現状

- (1) 駅前エリアを歩く人の比率は観光客が多い。一方で地域住民には積極的に訪れる理由が少ない。
- (2) 駅前エリアは既存交通網の利便性が決して高くないため、地域住民は自家用車で郊外へ行きがち。
- (3) 上記1, 2の結果、観光客向けの店舗等が増加傾向となり、地域住民向けの誘因力がさらに弱くなる。

対策・施策

- (1) 駅前通りの500mに全体を覆う巨大アーケードを設置。市電と歩行者向け交通手段のみ通行可の歩行者天国とする。
- (2) 天候や時間帯を問わず安心して通行できるアーケード 及び 道の駅的な複合施設により、誰もが訪れる魅力を作る。
- (3) 既存の公共交通とレンタサイクル等、全ての交通手段をワンストップで検索・決済できるシステムを構築する。

「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ スキーム図

プロジェクト名

駅前大門を新たな交通拠点に！

多様な交通手段で成り立ち、人が集まるための理由を持つ街を目指す。既存の交通手段を見直し、足りない部分を補う。また排気ガスなどの環境問題にも配慮した街づくりを目標とする。



「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ

課題・テーマ

新たな交通

現状

- (1) JR函館駅に近く、バス・電車など公共交通機関が充実している。
- (2) 宿泊施設が多く、商業地区としての知名度が高い。
- (3) 居住地・商業施設の郊外化により、訪れる人が減り、賑わいが無い。

対策・施策

- (1) 健康志向・環境意識の高まりによるサイクルツーリズムに着目し、空き家・空き店舗を活用した「チャリカフェ」を展開
- (2) 同一趣味層の交流場所を提供し、大門地区へのにぎわい創出。
- (3) 新たな交通手段として「自転車」の利用価値を高め、サイクルアンドライドやサイクルトレインを促進し、公共交通の利便性を高め、充実した移動環境を提供する。

チャリカフェDAIMON創設事業

大門地区の現状

- ・空き家・店舗が多い
- ・老朽化した建物が多い



大門地区の強み

- ・JR・バスなど交通手段が充実
- ・商業施設・宿泊施設が充実



展開方法

- 空き店舗の改修事業
- 「チャリカフェ」の開設事業
- レンタルサイクルの貸し出し事業
- 自転車保管・修理事業
- 周辺宿泊施設や飲食店、公共交通との連携事業

- | | |
|-------|---|
| 2020年 | 事業主体の創設
空き店舗の改修
連携事業体との調整
チャリセミナーの開催 |
| 2021年 | 運用開始～ |

目指す姿



「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ

課題・テーマ

コミュニティづくり・知的共創・異文化交流

現状

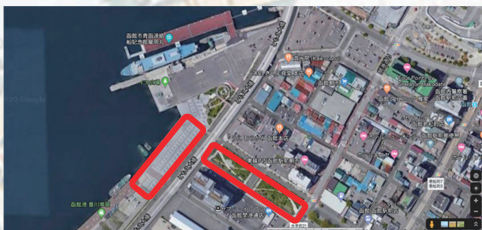
- (1) 空き家、空き店舗が多い。昼間に歩いている住民が極端に少ない。
バスや市電どちらでも訪れる事が可能であり移動の面では便利な場所。
- (2) インバウンドの受け入れ体制はあまり整っていない。
- (3) 居酒屋が多くレストランなど普通に食事するお店が少ない。

対策・施策

- ・コミュニティづくり・知的共創・異文化交流の場所として、若松埠頭にある函館市所有の広場及びグリーンベルトの活用を提案。（ハコデジマ）
- ・市民が気軽に立ち寄れる「憩いの場」を提供。 ・飲食も楽しめる場として経済効果にも期待。
- ・外国人観光客や若松埠頭に入港するクルーズ船の外国人乗客にも立ち寄ってもらい、市民との交流を図る。

「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ スキーム図

『ハコデジマ』を提案



1634年に築造された長崎県の出島を参考に函館の出島として「ハコデジマ」を提案。長崎の出島は外国人を隔離するための島であったが、ハコデジマは函館市所有の若松埠頭の広場及びグリーンベルトを活用し、市民と多様な外国人が交流できる場とする。

運営は「憩いの場」の提供が主となり、公共性が強いので行政が主導
(株式会社はこだてティーエムオーも候補)

【デジマの活用1】

市民が集まる場所の創出（コミュニティ）

常時市民が利用できるスペースにすることにより、市民にとって集まりやすい憩いの場を創出。
函館は食材の宝庫。テラスやBBQセットを用意し、食材は函館朝市など近隣の商店街で好きな物を購入する事により消費効果も。



【デジマの活用2】外国人観光客（異文化交流）

外国人観光客や若松埠頭に寄港するクルーズ船乗客に対しておもてなしエリアとして立ち寄ってもらえるスペースとする。
クルーズ船寄港時には日本の伝統文化のイベントや市民向けに函館在住の外国人、留学生による外国文化のイベントを開催。

化学反応
(知的共創)



新たな刺激的文化の創出

(出典元 yahoojapanより)

「地方創生カレッジ in 函館」Hグループ 函館駅前・大門地区創生シナリオ

課題・テーマ

大門公園化計画

現状

- (1) 大門地区には空き家、空き地、空きテナントが多く、人気が少ない寂しい街並み
- (2) 駅前周辺に緑が少なく休める場所が少ない
- (3) 駅前、大門エリアにランドマークがない

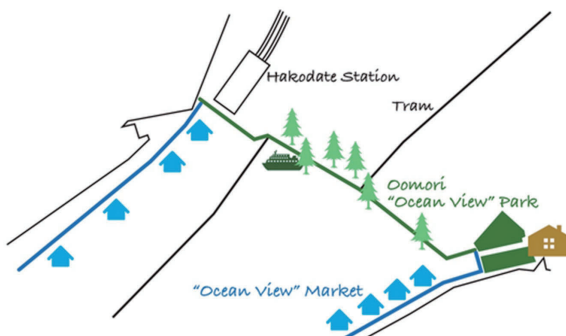
対策・施策

- (1) 函館駅から大森浜まで緑地化。函館駅から大森浜までの間を歩行者天国にして、緑の木々の間に市電と歩行者だけが通れるようにする。そうすることによって駅前から大森浜までの導線ができ、市民は車以外の歩きたくなる通りになり、観光客には癒しと安らぎ、函館の自然を体感できる。空き地に緑の公園と摩周丸を移設し、新たなランドマークとする。
- (2) 海の街函館の魅力を活用するべく、大森浜方面に朝から行けるスポットや市民の賑わいの場所づくり。廃校の宇賀の浦中学校跡地と大森公園を利用して、海浜公園を造る。多目的レクリエーション施設、多目的商業施設（博物館、保育園、飲食店、イベントスペース等を併設）。
- (3) まずは海浜公園周りから始めて収益が見込めれば大きくする。緑地・歩行者天国は駅-松風町の間から整備する。企業の広告費、店のテナント料、イベントの経費（場所代）その他の収益で維持管理を行う。

「地方創生カレッジ in 函館」Hグループ 函館駅前・大門地区創生シナリオ スキーム図

「大門公園化計画」

函館駅前から大森公園の道を
緑道化



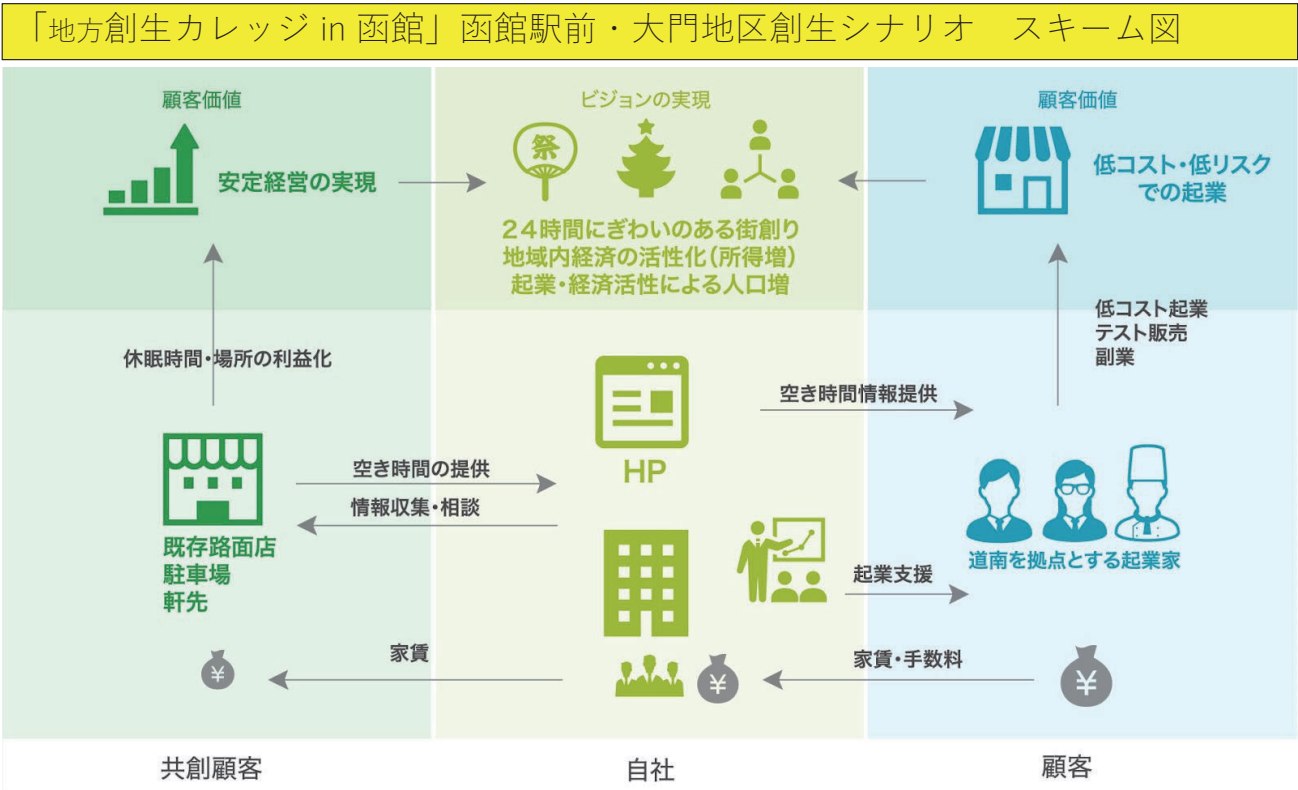
海のまち函館の魅力を最大限に活用
緑地・歩行者天国は駅～松風町の間から整備

豊川埠頭と大森町の海沿いも
緑道化



大森公園まわりから小さく始めて収益化
収益が見込める形で徐々に拡充を続ける

「地方創生カレッジ in 函館」 函館駅前・大門地区創生シナリオ
課題・テーマ
ロスタイムエコノミーによる地域経済の活性化
現状
<p>(1) 大門地区では観光向けの飲食店が多く、昼間に空いてる店が少ない。よって日中の交流人口が少ない ※23時以降も同じ、ナイトタイムエコノミーの欠如</p> <p>(2) 観光という外部要因が多いビジネスモデルでは、店舗経営が安定しない。</p> <p>(3) 人口減少による市場の縮小や、経営者の高齢化で閉店する店が見られ、増えると予想される。</p>
対策・施策
<p>(1) 貸し出ししたい店舗の空き時間情報を当社が収集し発信。地域や全国の起業家を集める。</p> <p>(2) (1) をマッチングし時間貸し不動産及び、起業支援全般を行う</p> <p>(3) それにより、閉店時間を低コストの起業の場として、地域に賑わいや雇用を創出</p>



「地方創生カレッジ in 函館」函館駅前・大門地区創生シナリオ

課題・テーマ

稼ぐ仕組み にぎわいたウン函館駅前大門地区

現状

- (1) 中心市街地の郊外化により函館駅前大門地区の生活者が激減し、車を中心とした生活に利便性があり歩く人が少ない。
- (2) 個人の多様化するニーズに伴い百貨店が廃業、あらゆる世代にとって長時間居心地の良い空間が無い。
- (3) 函館駅は観光・ビジネス共に陸・海・空の交通のHUBとなっているが、市民の利便性が悪く利用機会が少ない。
- (4) 函館駅前から大門までの間を、市民・観光客が足を運ぶ必要性が少ない。

対策・施策

- (1) 利便性の高い公共交通機関網の整備により脱車社会を目指し、高齢ドライバーの事故防止、歩く頻度の増加による街の賑わいづくりと健康増進に貢献、自転車優先道路の普及など環境に優しい街づくりで市民が世界に誇れる街を作る。
- (2) 岩手県紫波町(公民連携)オガールを参考にあらゆる世代が長時間居心地の良い空間を作る。
- (3) 利便性を向上させ週末駅前に来たくなる場所、機会を作る。
- (4) 日常的に市民が買い物できる地元のお店(大門マーケット)を作る。
- (5) 観光客がコトを楽しむ新たな観光資源(ナイトタイムエコノミー)を作る。

「地方創生カレッジ in 函館」函館駅前・大門地区創生シナリオ スキーム図

にぎわいたウン函館駅前・地区～課題と解決に向けた全体概要

